

団体名： 株式会社アルーシャ

■株式会社アルーシャは2009年に設立され、2010年より外国人への日本語教育に携わっております。当社は、日本在住難民・外国人の自立支援を行っており（難民が“手に職つけて”仕事をする「難民ネイルサロン」を運営等）、同時に生活者としての外国人に日本語講習も行って参りましたが、講師はすべてボランティア協力に頼って参りました。どうにか日本語教室を体系化できないものかと思っていたところ、文化庁当事業の受託がなかったことがきっかけで、この度より本格的に日本語講習を開始した次第です。

■参加者は、事務所のある港区に暮らす外国人の他、難民の方々が多く参加しています。これまで難民支援をしている関係で、難民外国人支援NPO団体の方々が難民に「無料の日本語講習！」としてご案内くださったためです。

■港区は国際色豊かで、日本語教育組織も多いです。当事業を通じ、港区国際交流協会をはじめ、地域コミュニティ、他団体とも積極的に交流し、連携体制を構築できました。更に深めていきたいです。

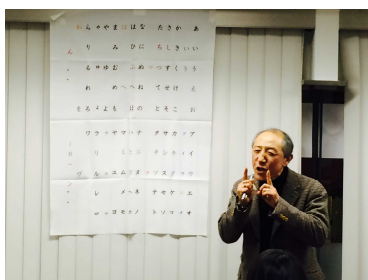
■一般の日本人に、在住外国人の状況、日本語教育の重要性を理解していただくために、知名度の高い女優/タレントの方々にも講師として登壇いただくセミナーを開催いたしました。セミナー参加者からは「外国人の苦勞が分かった」「異文化交流の大切さが理解できた」と共感のお声を多数いただきました。



ネイリストとして活躍する
外国人（ミャンマー出身難民）



参加者手作りのギニア料理を
食べながら楽しく日本語学習
（難民参加者が多く、顔写真を掲載できません）



セミナーでの講演ワンシーン
（早稲田大学大学院名誉教授 川口義一先生）



セミナーで講演するイラン出身
女優サヘル・ローズさん

株式会社アルーシャ 東京都港区虎ノ門5-11-11 虎ノ門MKビル2階

www.arusha.co.jp / 代表取締役 岩瀬香奈子

お問い合わせはメールでお願いします info@arusha.co.jp

事業実施概要

事業名称	都内在住外国人が日常生活において必要な日本語、文化習慣・行政制度等を理解するための日本語教育				
地域の課題	港区はじめ都内に居住する多様な外国人に幅広く正確迅速かつ公平に情報を伝達するためには(特に緊急時等)、多言語に対応した日本語教育指導が必要と思われる。				
事業の目的	都内で生活する外国人の多くは、日本語が十分理解できていないので、日本社会に溶け込んで十分な情報を得ることができない。このため、各人に合った日本語教育を推進し、これにより地域の外国人の生活の安定向上、地域との共生を図る。				
事業内容	取組1		取組2		
	名称	関係機関等の連携・協力を推進する検討体制の整備	名称	多様な機関等との連携・協力に基づく日本語学習機会の拡充	
	目的	地域の関係者が外国人への日本語教育の課題、対応策等について認識を共有し、日本語教育をより充実させ地域住民と外国人の共生を図る。	目的	日本語学習を通じ、外国人が日本で暮らすことにおける様々なトラブルを未然に回避し、より生き生きと暮らし、地域住民との共生を実現する。	
	内容	日本語習熟度を高め、地域住民と外国人が共生することを目指す。そのため、港区国際交流協会はじめ、関係機関と連携し、外国人への日本語教育を推進浸透させるべく検討委員会を設置し、協力体制を構築する。	内容	地域の外国人が日本で暮らす中で、これまで遭遇したトラブル、疑問等をヒアリングしながら、且つ地域住民にも外国人との共生において気になることをヒアリングし、より役立つ実践的な日本語講習会を開催する。	
	対象	地域/日本語教育関係者	対象	日本語を理解できていない外国人	
	時間	1回 2 時間× 2回(全4時間)	時間	1回 2 時間× 54 回(全 108 時間)	
	人数	10 人	人数	13 人	
	取組3				
	名称	セミナーの開催(取組の成果の発信)			
	目的	日本語教育を受講した外国人はじめ有識者による講演にて成果や現状を伝え、日本語教育が外国人の生活向上に成果があったことを、地域住民や外国人に発信する。地域住民が外国人の置かれている状況、立場、気持ちを理解するとともに、日本語教育の重要性を社会にアピールする。 (外国人タレントとして活躍しているサヘル・ローズさん、矢野デイビットさんも講演)。			
	対象	都内在住在勤日本人と外国人 約70人			
	時間	2 時間			
連携体制	同じ目的を持つ日本語教育機関(港区国際交流協会)と連携協調し、補完関係を構築。港区役所とも情報交換を密に行い、外国人への情報発信を行う等、体制を整備した。				
成果と課題	実践的な日本語講習ができた点、セミナーにて日本語教育に関心のなかった方にアピールできた点は成果。課題は関係機関との恒常的な協力体制の仕組みづくりまでは至らなかったこと。				
皆様へ一言	初めて当事業受託がない、新しい視点から外国人への日本語教育にアプローチできました。これからも多くの日本人を巻き込む企画を考えたいです！ご指導お願いします！				